

表で示すように、さまざまなものがあります。

この方の場合には、この第3の原因が当てはまるものと考えられますが、原因によって

対策も異なってきますので、まずは骨髄機能低下の原因をはっきりさせ、それに応じた治療を行うことが大切だと思います。

(別所正美／埼玉医科大学病院 血液内科・医師)

## クスリ：かゆみ

**Q3** 全身のかゆみで苦しんでいます。いろいろな内服薬・軟膏・ローションを試していますが、効果が長続きしません。かゆみに効く「画期的な新薬」(編集部注：レミッチ<sup>®</sup>)が出たと聞きましたがどんなクスリでしょうか？

**A3** 2,400人を対象に新潟大学の先生方が行った調査では、45%もの透析患者さんが強いかゆみで悩んでおられますが、これまで私ども透析医、内科医が処方してきた抗ヒスタミン薬などのクスリは効果がありませんでした。そこで「かゆみというつらい症状から患者さんを救いたい」との気持ちから、私どもはこの10年間臨床試験を繰り返してきました。その結果、レミッチ<sup>®</sup>カプセル(一般名ナルフラフィン)という、抗ヒスタミン薬とは作用のしくみが異なり、これまでの内服薬や塗りクスリが効かなかったかゆみを抑えてくれる新しいクスリが2009年1月に厚生労働省から認可され、同年3月から発売されています。

レミッチ<sup>®</sup>は、中枢神経系や皮膚の下にあるカッパ受容体に結合してかゆみを抑えま

す。全国のかゆみの強い透析患者さん330人を対象とした2週間の二重盲検試験\*では、何も入っていないものと比較して、レミッチ<sup>®</sup>は明らかにかゆみを抑制することが統計的に示されました。

211人を対象とした1年間の試験でも、大きな副作用はなく、かゆみを減らすことが示されました。専門家による依存性評価委員会において、1年間のデータを検討した結果、精神依存および身体依存を示す症例は1例もありませんでした。

私自身、患者さん109人のうち15人に投与した結果、14人においてかゆみが減り、レミッチ<sup>®</sup>以外に使用していたかゆみ止めの内服薬・外服薬が必要なくなりました。ある患者さんは、かゆくて夜中に起きてしまうため飲水でまぎらわしていましたが、レミッ

\* 二重盲検試験：思い込みの効果を除去するために、医者にも患者にも、どちらのクスリに薬効があるのかわからないようにして投与し、治療の効果を確認する試験。

チ<sup>®</sup>を始めてから夜中に起きなくなったので、中1日の体重増加が4kgから2kgに減ったという、予想外の効果もありました。

軽度の副作用として、15人中3人で眠れなくなる感じ、ほかの1人で眠くなる感じがありました。添付文書には「夕食後または就寝前に内服」とありますが、それにこだわらずに、レミッチ<sup>®</sup>により不眠になる患者さんは、

午前の透析後に内服する、また、透析のない日は朝に内服するなど、飲む時刻を工夫していただきたいと思います。一方、眠くなる患者さんは、夜帰宅後に飲んでください。レミッチ<sup>®</sup>はダイアライザで半分くらい除去されるので、透析の後に内服することが大切です。

(熊谷裕生／防衛医科大学校 腎臓内科・医師)

